

平成29年度の長者中をこんな学校に

八戸市立長者中学校 校長 石毛 清八

本年度も校訓「探究、創造、協力」を学校生活の指針として、確かな学力、豊かな心、健康な体を育成し、様々な課題を解決して自分の未来を開き、社会を生き抜く子どもを育てていきたいと考えています。そのために、こんな学校づくりを進めていきたいと考えております。

1 学力を保障できる学校に

本校は、平成24年度から5年間、『学び合い』による授業づくりに取り組んできました。『学び合い』とは自分から働きかけて友だちやモノ（資料やテキスト）と関わり、仲間と聴き合いながら協同で課題に挑戦しながら自分の力を高めていく学習です。一人ではできないことに出くわした時に、誰かが助けてくれるのを待つのではなく、自分からすすんで他にはたらきかけて、支援を求める、意見を求める、自分の考えへのコメントを求めることが、豊かな思考を展開したり、身に付けたりする力になるのです。また、人に教えるということは、自分の理解したことをもう一度言葉にしたり、図で表したりする必要に迫られます。そこで、自分の考え方が浅かったことや誤解していたことに気づいたり、改めて理解を深めるするチャンスが生まれるのです。

我々は『学び合い』を通して、全員の学力向上を目指すとともに、どの子ども学びの主体となり、学習を進める姿を目指しています。今年度も、数値（NRT、全国・県学習状況調査等）に現れる学力向上を目指して研究を進めていきます。

2 よりよい人間関係をはぐくむ学校に

私たちは、『学び合い』の授業で、当然学力の向上を目指しますが、それにのみとどまらず協働的な学びを通して、よりよい人間関係を築くことを目指します。人間関係がよくなると、子どもたちは安心して学べる（わからないと言える相手がいる、自分の居場所がある）ようになります。友だちの力を借りながら、納得いくまで学び続けることができる結果として学力の向上も確実に得られるようになります。このよい循環によって、人間関係や学力の一層の向上や主体性・自己有用感の高揚が図られます。私たちは、そんな集団（学級）づくりを目指しています。

また、本年11月、本校が八戸市中学校教育研究会特別活動・キャリア教育研究協議会の会場校となり、市内の中学校の先生方にその成果を発表することになっています。特別活動の研究は、教師力の根幹ともいえる学級経営力を高めることにつながります。この研究を通して、教員の指導力を磨いていくのはもちろんですが、最終的には、子どもたちによりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治能力を育てることを目指していききたいと考えています。

*特別活動・・・学級活動（学級や学校の生活づくり、適応と成長及び健康安全、学業と進路）、生徒会活動、学校行事

*キャリア教育・・・望ましい職業観・勤労観、職業に関する知識・技能を身に付させるとともに、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育

3 「歯を食いしばる場所」だけれど、楽しい学校に

学校は、集団生活だからこそ学べる人間関係、切磋琢磨。そこから生まれる摩擦や挫折。部活動での、練習の厳しさ、勝つ喜びと負けるくやしき。そういうことを体験して、乗り越えて人として成長できる喜びの場であり、自分の価値を認める場でありたいと思います。教師は、一人一人の生徒に寄り添いながらも、生徒の目の前の困難を取り除くのではなく、生徒が自分で歯を食いしばって、様々な困難を乗り越えられるよう生徒の自立の支援をしていきたいと考えています。

以上のことに重点を置き、私たち教師自身自己研さんに努め、子どもたちの確かな学力を基盤とした、生きる力を育成していききたいと考えています。

ご家庭の皆様のお力添えをいただきながら、今年1年お子様の教育にあたってまいりたいと思いますので、ご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(2017. 4. 25 P T A総会)